

<b>事業所名</b>	<b>グループホーム花の里・萌</b> (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成18年12月19日
<b>評価機関名</b>	<b>㈲東京リーガルマインド</b> (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指しているものは、一人ひとりの生活や人生を知り、これまで過ごして来られた生活の継続をする。より専門的なケアを展開し、主体的で可能性を重視した援助をする」としている。「入居者のこれまでの生活を大切に、様々な思いを汲み取っていく」という言葉通り、代表者はあちらこちらと駆けずり回って古き良き日本の文化ともいえる風土を築き、入居者の心の慰めとしている。また、接遇やマナー、介護の研修などを外部から講師を呼んで地域の集会所で行い、ケアの質を高める取り組みもされている。</li> <li>・「ここで暮らして良かった」と入居者に思ってもらえるようになりたいと、管理者やスタッフは心をつとめている。年を経るごとに機能レベルが低下しているのが現状であり、日々の生活の中で生活リハビリを推し進めたいと考えている。</li> <li>・近隣地域の中に浸透したホームにしたいと、夏祭りや様々な行事を通じて地域との連携に取り組んでいる。これからも、包括支援センターや民生委員などを始めとする地域資源を活用していきたいと考えている。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者が、自分を大切にしてくれていると思えるようにという配慮から、コミュニケーションを心がけ、スタッフそれぞれが、「一日一声運動」をしている。</li> <li>・スタッフの動きや日課は、入居者のペースに合わせるようにしている。入居者が一人になってホッと落ち着ける場所、誰かとおしゃべりしたい場所、自然の移り変わりを見ながら思いを馳せる場所、実際に外気に触れたり水遣りができる場所等、入居者がくつろげる場所作りが行われており、充実している。</li> <li>・生活空間の床材や壁紙等、材質や色のコーディネートが上質で落ち着ける。光や小鳥の声等が生活空間に溶け込んでおり、体のリズムを正常に調整させてくれるように思える雰囲気作りがされている。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ができることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なだらかなや種松山を背にし、「グループホーム花の里・萌」の瀟洒なヨーロッパ風の建物が建っている。目前には田園風景が広がり、遥かに倉敷の街が望める。玄関の前庭には、けやきやしだれ桃の木、もっころバラのアーチ、欧風の変わり煉瓦の敷石にお洒落なベンチ、可愛いプランコなど、枚挙にいとまが無いほどの「素敵空間」である。</li> <li>・室内は、床材や壁紙、建具や調度品など、どれをとってもシンプルで品があり、差し込む光までものがやわらかで優しい感じがある。また、居間にある床暖房や、広い廊下を活用したくつろぎの読書スペースなど、設備面でも随所に心地良く住める工夫があり、とても充実している。</li> <li>・日本の文化でもある、足踏みミシン、蓄音機、富山の置き茶箱、初期の頃のテレビや懐かしの美人画ポスター等々、入居者の方の感情・情動に訴えて古き良き昔を思い起こさせ、また、自分で動かせるような品々が、見て・触れることができるように自然な形で配置されている。</li> <li>・代表者は、地元出身であり、ホームを中心にした地域の人の輪が大きく広がっている感がある。代表者のお年寄りへの強い思いから、地域での福祉事業を更に展開される予定があり、様々な関わりや運営推進会議を通じて地域との連携をとって大切にされている。</li> </ul>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善ではないが、今後は、地域の中でのホームの役割も、益々重要になってくるように思う。研修・実習の受け入れや、認知症介護の経験や知識を地域の方々に還元されるなどの活動も検討していかれてはどうだろうか。</li> </ul>

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「便り」には入居者の笑顔満面の写真を載せるため、本人、家族の了解をもらい同意を得ており、プライバシー保護に配慮している。</li> <li>・入居者一人ひとりについて、それぞれのできること・したいことについて、役割意識・目的意識を持ってもらい、生活が活性化するように配慮している。毎日の歩行練習を日課にされている方や、手芸や貼り絵、絵画などをスタッフの支援のもとライフワークにされている方などがおられる。また、新たな試みとして、陶芸教室や歌などの趣味や楽しみも増やしている。</li> <li>・入居者は近隣の方が殆どであり、農業をされていた方が多く、付近の山や田畑を借景に、季節を感じ、それまでの仕事を思い起こしながら、庭の手入れや菜園作りをすることができる。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者は、介護マンパワーの定着と質の向上に力を注いでいる。「ホームの良し悪しは介護の質に尽きる」とし、外部から専門的な講師を呼んで、定期的に接遇の研修や介護知識・介護技術の研修を行っている。各管理者は、介護福祉士のほかに栄養士や社会福祉士等の資格もあり、栄養学や社会福祉学の見地などから多角的に援助することができる。</li> <li>・転倒や誤飲などの事故について、「事故報告書」により再発防止に向けての協議検討がなされている。今後は、「ヒヤリハット報告書」や独自のマニュアルを作成し、スタッフ間の危機意識を高めていく方針である。</li> <li>・ベッドからの転落・転倒が考えられる方には、床の上にマットを敷いたり、混乱された時には和室に寝ていただき見守るなど、事故の可能性を考慮した取り組みをしている。</li> </ul>		